

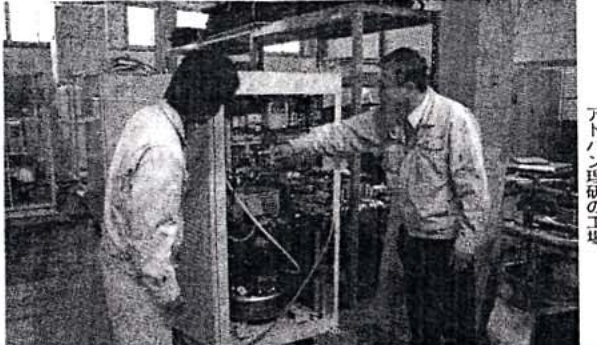
メカトロニクス京都2007

アドバン理研

アドバン理研(京都府八幡市)は空素や酸素など産業ガス発生装置を開発製造の専門メーカー。毎時10立方以下の小型空素発生装置では6割とトップシェア(同社推計)、同10立方以上の大型でも上位グループの座を固めている。

産業ガスメーカーへのOEMに徹することで、開発に資力を集中。先ごろ製品化したのがユニット式の空素発生装置「T」。

現在地を本社を移したのが07年4月。府下3カ所に分散していた生産拠点を集約した。新本社の規模は敷地面積が約1500平方メートル、延べ床面積が800平方メートル。集約による生産性の向上とともに、生産能力をこれまで2倍引き上げた。



アドバン理研の工場

NKE

NKE(京都府長岡京市)はパワーツール、クレーン、搬送機、省電機、セル生産支援機器の開発で産業界の最前線をつくりだしている。07年度の重点製品の1つがユニット式コンベヤだ。ターンや直線などのユニットを組み合わせてユーザーの現場ニーズに応じた搬送ラインがフレキシブルに構築できる。電子部品など小物組み立てライン向けに積層展開。最適モノづくりをサポートする。

同社は生産革新をキーワードに自ら最前線モノづくりの構築を進めている。05年に電子機器と機械に分かれていた営業部門を統合、06年の生産部門に統合。08年には開発部門も統合する計画だ。ネットワーク機器などの開発を手掛ける電子、パワーツール、クレーンなどの機器、ピッキング装置など新規製品の3つに分かれていくが、それが融合して、最前線開発を実現する。

従来は久御山、京田辺で大型機を、城陽市の旧本社工場で小型機と部品加工を行っていた。

Zシリーズだ。毎時20立方の発生ユニットを必要に応じて増設、能力アップできる。半導体や食品などの小型や大型工場、幅広い対応が可能。タイマーや設備増強ユニットをそろえた。

現在地を本社を移したのが07年4月。府下3カ所に分散していた生産拠点を集約した。新本社の規模は敷地面積が約1500平方メートル、延べ床面積が800平方メートル。集約による生産性の向上とともに、生産能力をこれまで2倍引き上げた。

サンフレム

サンフレム(京都府宇治市)は船舶用ディーゼル、焼酎の大手メーカー。環境保全や燃費効率向上をキーワードに、製品開発に独自の技術を進めている。

低燃費・高燃費燃料燃焼用ディーゼル(ロータリーカッター)は、粗悪油や廃油燃焼に威力を発揮する。省エネなど環境保全や最近の重油高騰を背景に注目を集めている。導心力を利用して燃焼させる仕組み。硫黄分の少ない軽油や灯油など燃料の切り替えが容易なことも、ユーザーからの高い評価につながっている。

現在の造船業界は活況が続いている。同社でも多くの受注を抱えている。受注増には07年の本社移転で対応している。格好だ。移転を機に規模は2倍以上に拡大。また、生産性も向上。同じ人員でパナ生生産量は3割程度増えた。

テストや生産設備を整え、開発力も強化。船舶用機器の総合展「シーショパン2008」に向けて新製品開発を進めている。

カシワジ

カシワジ(京都市南区)は高精度ホブを主力に各種工作機械を手がけている。メインユーザーは自動車業界。最近では切削油を使わないドラッグ方式の環境配慮型ホブ盤に対する関心が高まっている。注目が集まっている。

同社は今後高精度ホブと超硬ホブによる仕上げ加工のノウハウ、技術的な生産現場



活況なカシワジの本社工場

藤居製作所

藤居製作所(京都府久御山町)は加工現場で年々高まる品質向上の要求に対応し、穴開け作業の際に生じるバリを簡単に取り除く「切削具アンナ」を開発した。アンナは、円筒状の部品を開けた穴の内面に生じるバリを、棒状のホルダーの先端につけたチップを回転させることで削り落とす仕組みだ。自動車部品や空調機器など金属、エンジンリアリテックプラスチック、硬質合金などさまざまな材質のバリを削り落とすのに対応。穴の内面を滑らかにする。穴のバリを削り落とすのに役立つ。アンナは、バリを削り落とすのに役立つ。アンナは、バリを削り落とすのに役立つ。



太陽精機びわこ工場

太陽精機(京都市南区)は製本の4工程(紙裁、丁合、製本、断裁)に必要な機器を揃える。先端レーザー研究所(横濱市)やレーザー専用工場の新設計画など、研究開発から生産にいたるまで顧客ニーズに沿ったモノづくりに徹している。ソフトウェアやレーザー発生装置など、デジタル技術の活用も進んでいる。

また、欧州連合(EU)、アジアに確立しているネットワークをより強固にし、グローバル市場に対応していく。

ニチダイ

ニチダイ(京都府京田辺市)は切削加工なしに常盤で金属製品を加工する「ネットシェイプ」を核に精密製造型工業の大手メーカー。エンジンやトランスミッション部品など自動車向けを中心に製造を提供。また、精密製造型工業の中、少量生産も手掛けている。

金型以外の分野では、デジタルエンジン用VGTボウチャーシャフト部品が環境規制を背景に需要が伸びている。最近の原油価格高騰による石油精製用フィルターの需要増加に伴い、フィルターの増産体制を構築する。資本金は9000万円で、ニチダイが引当を出資。年間4億円の売上高が目標で、07年10月の操業を目指し、建設を進めている。

川田鉄工

川田鉄工(京都府京丹波町)はマシニングセンター(MC)用インテグレーション、正逆回転可能なリボルブ「タツテックス」を主力として展開している。ワークを取り付けた台が回転し、ワークをMCで5面加工できる。Mのドリルなどがアッシーを押し回して回転させるため、駆動電源が不要で簡単に設置できる。7月に発売する最新機種

日本EICサービス協会

日本EICサービス協会(JEISA)は設備機器メーカーの保守・メンテナンス業務を代行している。各地の中小保守業者と結んだパートナーネットワークを活用し、サービス網を自力構築できない中小設備メーカーや輸入機械商などがユーザーに安心、安全を保障する体制を提供する。サービスは計測器、制御機器、電装装置などが対象。JEISAは機器メーカーと契約を結ぶ。ユーザーの現場でトラブルが発生した場合は、1からJEISAに連絡。JEISA事務局が最寄りのパートナー企業を選び技術者を派遣する仕組みだ。



京都映工社の社内

京都映工社

京都映工社(京都市伏見区)は半導体製造装置を中心に各種カム、精密部品加工事業を手掛けている。「時代に応じた技術力の養成で産業界の生産性向上に貢献」を経営理念に、ユーザーの要望をカタチにし、目標を現実にした。

売上高の大半を占める半導体装置関連事業は、半導体製造装置をバックアップする。型縮めたりする後工程と呼ばれる工程の機械や関連部品。部品の8割以上を内製するほか、パートナー企業との協業も進んでいる。現在、2007年までの5カ年の中期経営計画を推進中。部品だけの顧客には装置一式での顧客を深掘りするほか、首都圏の半導体関連企業など新規顧客を開拓している。最終年度にはピーク時と同じ年商10億円を目指す。

フォロワーの風に乗る企業

イシダ(京都市左京区)は計量包装システムを核に、効率的で安全な総合システム製品によって、ユーザーの事業経営をサポートしている。生産分野では計量、包装から検査、箱詰まで一貫した統合システムによって、生産性向上と経営情報管理に貢献。06年10月には画像処理に搭載したアルゴリズムを搭載したX線検出装置「I-X」がデンマーク食肉協会の性能テストで最優秀の評価を獲得しており、海外での需要増に期待している。

流通分野では電子棚札「E-Labelシステム」をはじめ、POSシステムやバックヤード機器まで連携する「小売流通向け統合検算システム」の導入が拡大。独自システムで業務を迅速化する物流分野の計量検量機「ピッキングシステム」も好調だ。

今月、食品分野向け製品の販売子会社「アシダインド」が業務を開始した。



独自のセル生産方式を展開するイシダの工場

太陽精機

太陽精機(京都市南区)は製本の4工程(紙裁、丁合、製本、断裁)に必要な機器を揃える。先端レーザー研究所(横濱市)やレーザー専用工場の新設計画など、研究開発から生産にいたるまで顧客ニーズに沿ったモノづくりに徹している。ソフトウェアやレーザー発生装置など、デジタル技術の活用も進んでいる。

片岡製作所

片岡製作所(京都市南区)はYAGレーザー加工装置、二次電池検査装置、液品や太陽電池製造用の分野でオンライン、ナンバードン部品など自動車向けを中心に製造を提供。また、精密製造型工業の中、少量生産も手掛けている。

ニチダイ(京都府京田辺市)は切削加工なしに常盤で金属製品を加工する「ネットシェイプ」を核に精密製造型工業の大手メーカー。エンジンやトランスミッション部品など自動車向けを中心に製造を提供。また、精密製造型工業の中、少量生産も手掛けている。

金型以外の分野では、デジタルエンジン用VGTボウチャーシャフト部品が環境規制を背景に需要が伸びている。最近の原油価格高騰による石油精製用フィルターの需要増加に伴い、フィルターの増産体制を構築する。資本金は9000万円で、ニチダイが引当を出資。年間4億円の売上高が目標で、07年10月の操業を目指し、建設を進めている。